

新日美選抜小品展変更の趣旨

事業部 土屋政夫

毎年開催していた、「新日美委員小品展」の内容をすこし変え実施することになりました。委員だけに限定されていた小品展を一般の会員の方へ窓口を広げようとするものです。これに伴い展覧会の名称は「新日美選抜小品展」となります。委員は毎月一回の委員会で意見交換することで交流が来ていますが、一般会員の方とはその機会が少ないのが現状です。そこで、この小品展を通じて僅かでも交流のきっかけとなり新日美の活性化の一助けになればと企画をした次第です。

選抜の人選が大問題で大いに悩みました。が次の通り決まりました。

前年本展受賞者及び各支部支部長推薦者です。それと出品者数不足の場合、調整役を担ってもらう委員の方です。この方法が正解かどうかわかりませんが、交流のきっかけ作りの第一歩です。勿論、会員間の交流だけでなく、作品を発表することが主たる趣旨であることは言うまでもありません。力作を発表し新日美をアピールすることも大きな目的です。以上のような事柄が趣旨です。これらを意図する方向に対しご理解を賜りますようお願いいたします。

以上とは別に交流や活性化が図れる事があればご教示下さい。皆様からのご提案、ご意見をお待ちしております。



シルバーサロンA

地震と第二十回多摩支部展

支部長 田澤博

深緑の萌えるような、桜の咲き誇る町並み、公園、森、山々、春は誰ともなく気持ちが高揚される、寒い間は外にも出ず暖房の部屋の中で、新聞テレビ国会中継に、日本のこの先はどうなるのか、国会議員の無責任な発言に我ながら腹の立つ事が、多々ありました。

日々気温もほのかに春の気配が、西の方では桜の開花がニュースで流れるように、此から本格的な春が、今年こそは、と思っても新たなところに今回の大地震、停電、日を追うごとに被害の大きさに驚き津波の怖さを知りました。日頃便利な生活の中に、計画停電という、始めてのことが通告され、又それに原発の事故で戸惑うばかりでこの先どうなるのか不安です。

二十回と節目の支部展が計画停電の為に展示会場を一時休業するとの連絡があり、延期にするかどうか、ぎりぎりまで状況を見ることに、でもどうにか計画停電も特に実施することなく、予定通り作品を展示することが出来ました。

でも三名の方が作品搬入展示に参加できない旨、連絡があり点数的にも心配に、支部員個々に点数の確認を取りながら、対話の中で嬉しいことに三名の方が展示参加したい事が確認取れ点数も集まり、又、最高の作品で会場を埋めることが出来ました。

今回も、芳賀先生に、忙しい中時間を割いて頂き作品の講評を頂きました。此は大きな励みにもなり勉強にもなり、次の作品に生かされるステップの講評で次の作品展が楽しみです。

期間中大きな余震も有り毎日足元が揺れているような気分が不安な展示期間でした。昨年よりも会場に足を運んで下さった方々も二割ほど少なく、地震、余震によるものと思います。この余震のある中支部展に足を運んで下さり、ご講評頂いた各支部の先生方方有り難う御座いました。この紙面をお借りしお礼申しあげます。

第十三回東京東支部展を終えて

支部長 土屋政夫

六月十二日東京東支部展無事終了しました。多くの皆様に「来場」高覧頂きました事、感謝致します。今回は、会場内のミニコンサートを企画してみました。大変好評で喜んでもらえました。



それと大地震の「募金箱」を置いたことで、沢山の温かい心に接することが出来ました。四十五点の力作を展示し展覧会としても成功だったと思います。

入場者数は個人情報との関連で把握し切れていませんが三五〇名位と推測します。ただ、展覧会を終えていつも考えてしまふことですが、会の今後のことです。支部会員の高齢化に伴う会員数の減少です。むやみに会員を増やせば質の低下に繋がりがかねません。

会の活性化に取り組んでいかなくてはと痛切に感じているところです。どうすれば活性化が図れるか、頭の痛い問題です。思いつくこと、できることを一つ一つ実行と思うのも、一つの思いつきです。

「編集部より」 会報への自由投稿がこここのところ、ほとんどありません。会衰退の兆候かとも思われ心配です。また編集も実質一人でごなしておりますので情報源、ネタの入手も、事務局長の援助があるにしても極めて貧弱です。そこで、インターネットが出来る編集者を、特に地方含め、数か所設けて、そこへ気軽に投稿出来る仕組みを考えたい。全国十三の支部がありますが、**私とメール交換が出来る編集者を募集します。名乗りを上げてください。**応募者には早速相談のメールを入れますのでよろしく願いたします。投稿された原稿は編集当初から共有状態にします。現在の「編集の構成」は
 1 頁 会長、事務局長、委員会の記事、トピックスなど
 2 頁 この人に是非書いてもらいたい記事、2 名位(編集部希望)
 3 頁 会員の自由投稿記事、支部活動、会の細々した連絡事項
 4 頁 事業部 スケッチ実施と予定、支部活動、会員自由投稿記事。
 送り先: 〒350-0824 次号発行予定平成 23 年 11 月上旬
 埼玉県川越市石原町 2-53-6 TEL FAX 049-224-0886 小高峯夫
 E:mail m-odaka@pop.kcv-net.ne.jp 携帯 09078313149